

「前橋シャッター商店街復活案～「エリア商店街」～」

我が故郷前橋の商店街は俗にいう“シャッター街”である。前橋商店街の日常に足を運んでみると、人はちらほらとしか見かけない。大半は通り道にしていたり、商店街に隣接しているデパート目的の人で、そのほかの商店街の数少ない、開いている店舗に入っていく人はほとんど見ない。そんな商店街でも、「七夕まつり」の際には通りが人で埋め尽くされる。この期間はそれまでの日常が嘘のように活気づく。しかし、それは表面上のことである。その客たちは、ほとんどが出店で買い物をしている。確かに商店街の店舗は普段と比べたら集客はあるだろうが、それがその店の客の定着に繋がっているわけではないことは普段の商店街の状況を見れば明らかである。私は一地元民として、この商店街の状況を寂しく思う。前橋商店街にはぜひともこの状況を脱却してもらいたい。ではこの前橋シャッター商店街を生き返らせるにはどのようにしたらいいのか？

まず考えたいのはなぜここまで商店街利用者がいないのか？ということだ。前橋市が中心商店街来街者等に対して平成 22 年から 23 年に行ったアンケート調査の結果によると、中心商店街に行かない理由のひとつに「魅力ある店舗がない」が約 15%を占めていた。

それならば単純に「魅力ある店舗がないならば魅力ある店舗を入れればいい」と考えた。前橋の商店街は大通りを境にいくつかのブロックに分かれている。このブロックごとにジャンルを統一したらどうか。例えば「飲食エリア」には個人経営の専門店を展開し、そうすることで、味の向上が必然になり、そのうえその店は商店街限定になる。気に入った店が見つければ、リピーターになり、ほかの店舗にも足を運ぶ可能性がある。居酒屋に地酒を置いたり、群馬産食材を使用したりして地元色を出すのも、群馬の県庁所在地・前橋の商店街として有意義なことだ。「ファッションエリア」には子供からお年寄りまでの男女問わない洋服店や美容室、ネイルのお店、靴屋などファッションに関係する店舗を集める。「エンタメエリア」は娯楽のエリアだ。おもちゃ屋やゲーム専門店、書店などの“物を買って求める”店舗、映画館や美術館、公園など“自分で楽しめる”店舗をそろえる。子供だけでなく、大人も楽しめることが大切だ。このようにジャンルを統一することで、利用したいものがあるエリアにストレートに行ける。また、同ジャンルの店舗に囲まれていれば、違う店舗に入る可能性は高い。さらに商店街全体でのキャンペーンや企画を行うこともできる。例えば、商店街全体のポイントカード制度や、エリアごとでの宝探し企画、などだ。

商店街は広いが、一店舗ずつの規模としては小さい。だが、だからこそ一店舗一店舗のらしさが出るし、店の人もしゃべりやすい。店が多ければ商店街を歩くのも楽しい。商店街に住む人も、必要な店が近くにあればそこに行くようになり、それによって商店街内の付き合いもできるだろう。こうすることで、魅力ある店舗・商店街ができることで雰囲気が変わり、客足が伸びて商店街のつながりも生まれたら、そこが「シャッター街」でなく「商店街」に復活できるのだ。これが私の考えた「エリア商店街」という復活案である。